

樽前山

1 概況（平成 14 年 4 月）

4 月 27 日から 29 日にかけてドーム南西噴気孔群の噴気活動が活発化し、夜間、高感度カメラで噴気孔群付近が明るく見える現象を観測しました。今期間顕著な地震増加は見られませんでした。ここ数年地震活動は活発な状態が続いています。

2 噴煙活動の状況

4 月 27 日～29 日にかけて、ドーム南西噴気孔群（B 噴気孔群）の噴気活動が活発化し、白色噴煙の高さは 27 日に一時 200m となりました（普段は高さ 20～50m）。また、27 日～29 日の夜間、高感度カメラで噴気孔群付近が明るく見える現象を観測しました（写真）。この現象は 27 日夜が最も顕著で、その後は徐々に弱まり 30 日以後は観測されていません。樽前山でこのような現象を観測したのは、高感度カメラが設置された 2001 年 2 月以降初めての事です。

B 噴気孔群の最高温度*は 1995 年以来 100～170 で推移していましたが、5 月 2 日に実施した現地観測では 270 となり、昨年 10 月（163）より約 100 上昇していました。また、噴気孔群の周辺 50m×30m の範囲に砂状の噴出物が数 cm の厚さに堆積し、一部では溶融した硫黄が流れた形跡が認められました。

これらのことから、B 噴気孔群では一時的に火山ガスの噴出圧力が高まったため、噴気孔の出口付近に付着していた物質が周辺に飛び散り、高温の火山ガスにより周辺の硫黄が自然発火して夜間明るく見えたものと推定されます。

その他、A 火口の噴煙は火口上 200m 以下、E 火口では 50m 以下と通常のレベルで推移しました。

*：最高温度は、サーミスタ温度計または熱電対温度計による実測、深さ 5～10cm で測定。

3 地震活動の状況

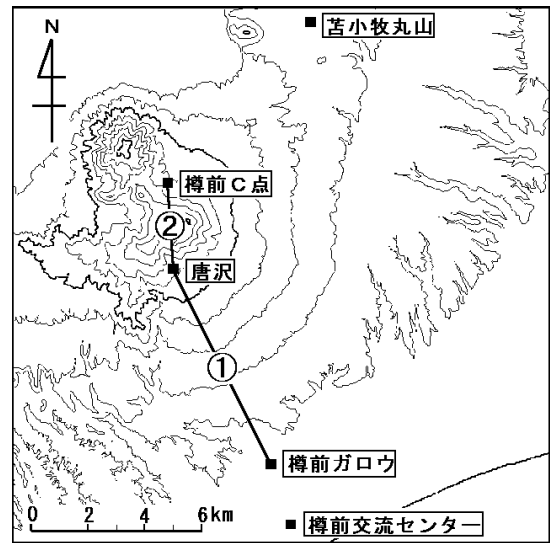
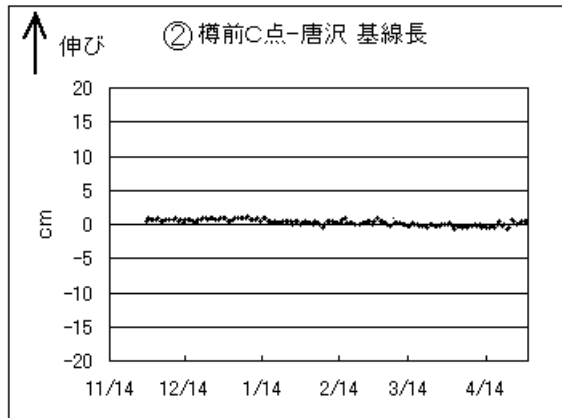
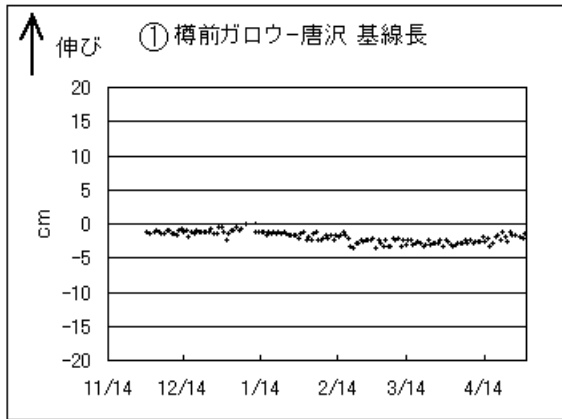
地震回数は 1 日あたり 0～5 回で推移し、顕著な地震の増加は見られませんでした。震源は従来と変わらず火口原西側の浅いところと推定されます。次頁のグラフに示すとおり 1996 年以降地震活動は増減を繰り返し、活発な状態が続いています。

月別地震・微動回数（C 点）

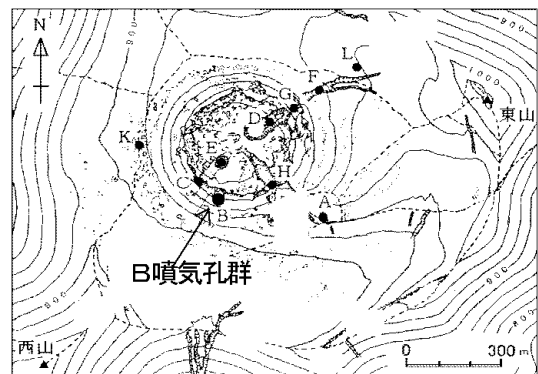
平成 13～14 年	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月
地震回数	23	35	511	372	107	101	56	108	53	65	61	41
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4 地殻変動の状況

G P S 観測では、火山活動に起因すると考えられる特別な変化はありませんでした。



樽前山基線長グラフ（2000年11月14日～2002年4月30日）



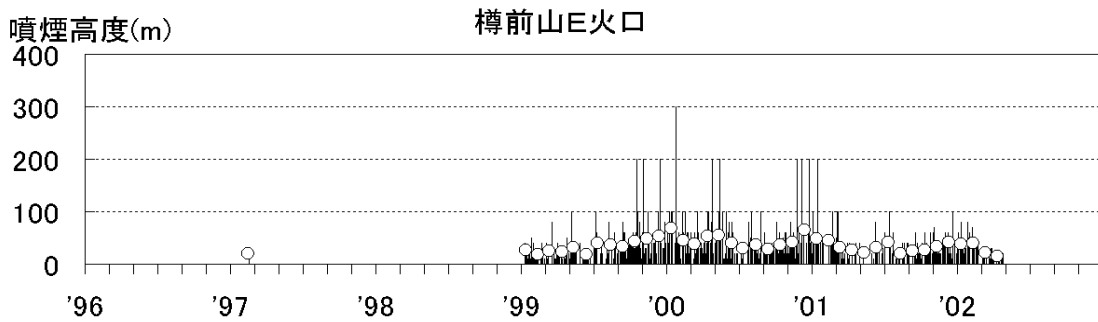
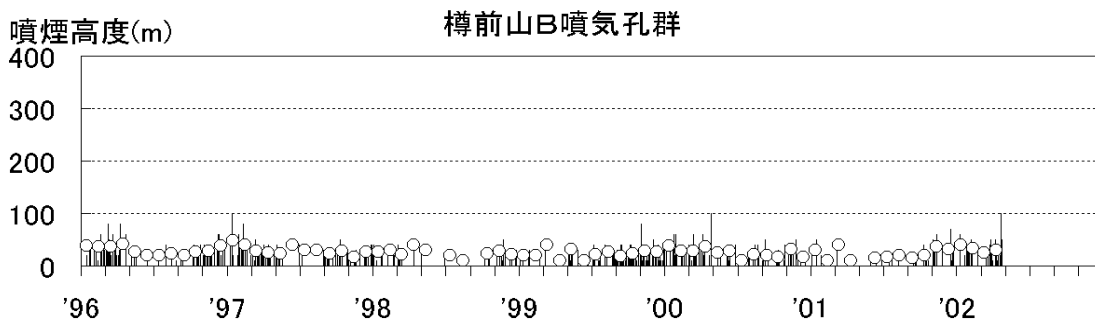
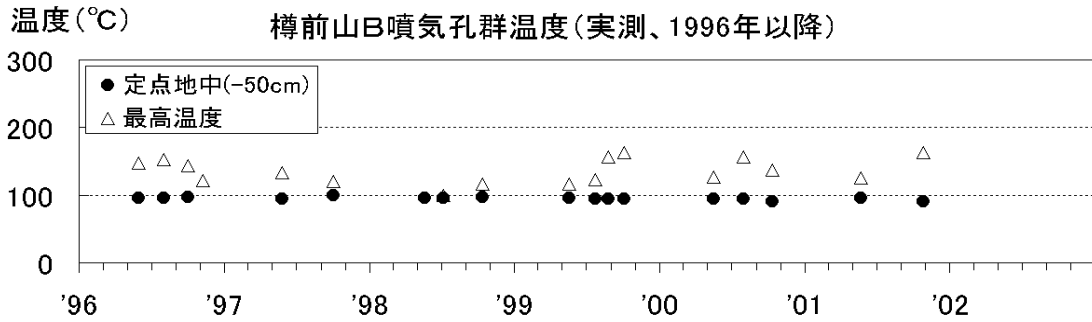
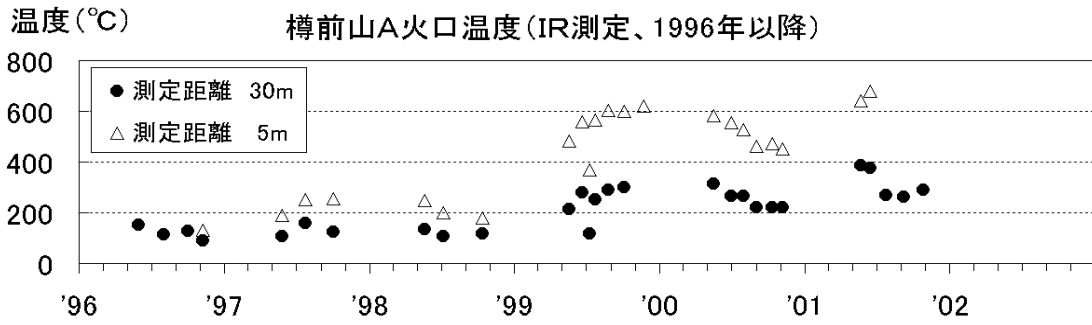
樽前山ドーム周辺図



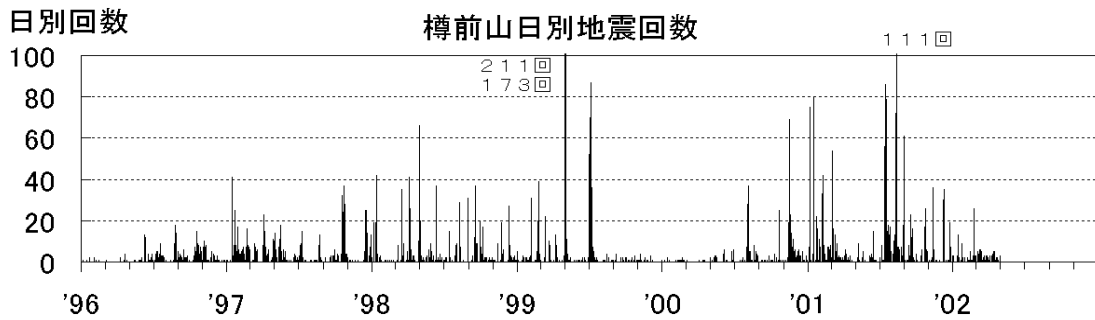
樽前山別々川カメラによる画像
中央に見えるドーム左手の白い所がB噴気孔群（4月27日19時33分）



樽前山ドームのクローズアップ画像
左手の白く光っている所がB噴気孔群（4月27日19時34分）



棒グラフは定時観測(09・15時)の日最大、○印はその月平均値



樽前山の火山活動経過図(1996年1月1日~2002年4月30日)